

英語名 : Laryngeal edema

A. 患者の皆様へ



ここでご紹介している副作用は、まれなもので、必ず起こるというものではありません。ただ、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。そこで、より安全な治療を行う上でも、本マニュアルを参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡してください。

「喉頭浮腫」は、いわゆる「のどぼとけ」に相当する部位にあたる喉頭の内部の粘膜がはれ、呼吸が障害される病態であり、医薬品によって引き起こされることがあります。

原因になりやすい医薬品は、高血圧薬（アンジオテンシン^{へんかん}変換酵素^{こうそそがいやく}阻害薬など）、解熱消炎鎮痛薬、抗生物質などです。何かのお薬を服用していて、次のような症状がみられた場合には、緊急に医師又は薬剤師に連絡して、すみやかに受診してください。

「のどのつまり」、「息苦しい」、「息を吸い込むときにヒューヒューと音がする」

※ 息苦しい場合は、救急車などを利用して、すみやかに受診してください。

1. 喉頭浮腫とは？ こうとうふしゅ

喉頭はいわゆる「のどぼとけ」に相当する部位で、吸入した空気の気管への入口で軟骨により囲まれています。喉頭はせまく、粘膜のはれ（浮腫）により空気の通り道を障害し、さらに浮腫が強くなると窒息を生じます。

喉頭のはれは、感染や外傷などでも生じますが、医薬品によっても引き起こされます。

代表的な医薬品としては、降圧薬（アンジオテンシン変換酵素阻害剤など）、解熱消炎鎮痛薬、抗生物質やアレルギー疾患治療用抗原エキス、ワクチン、色素添加物などがあります。

2. 早期発見と早期対応のポイント

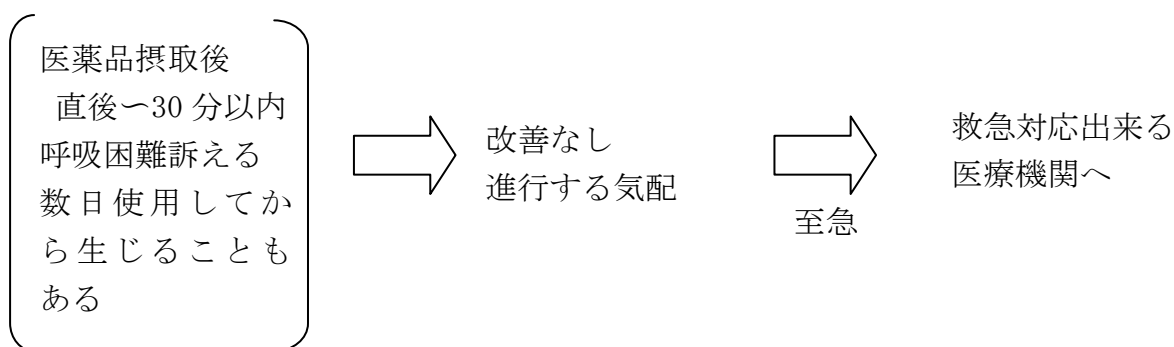
医薬品の服用後に呼吸が苦しくなる、苦痛を感じるといった症状が出現し、さらに進行すると空気を吸い込むときにヒューという音を喉頭で発生するようになります（喘鳴ぜんめいという）。その際、呼吸は浅く、速い傾向になり、横になっているよりも座った方が楽で（起座呼吸きざこきゅうという）、さらに首を後ろへそらせて喉頭腔こうとうくうを広げるような姿勢がみられます。また、顔面、口びる、舌のはれやしびれ、かゆみを伴うこともあります。

「のどのつまり」、「息苦しい」、「息を吸い込むときにヒューヒューと音がする」などの症状がみられる場合であって、医薬品を服用している場合には、緊急に医師・薬剤師に連絡して、すみやかに受診してください。

起座呼吸を訴えていて、改善がみられない、あるいは悪化するようであれば早急に医療機関に連絡し受診する必要があります。場合によっては急速に進行し、窒息してしまうこともありますので一刻を争います。

区別しなければならない喉頭の病態として感染、外傷によるもの、喉頭のけいれん、異物（もちなど）が誤って気管に入ってしまった場合などがあります。いずれにせよ喉頭を医師に観察してもらうことが必要で、そうすれば鑑別も可能です。

医師には、発熱や痛みなど感染を疑わせる症状がみられなかったか、どんな医薬品を服用したのか、いつから服用しているのか、ぜんそく喘息やふくびくうえん副鼻腔炎などの合併の有無についてもお伝え下さい。



※ 医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、このホームページにリンクしている独立行政法人医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページの、「添付文書情報」から検索することができます。

<http://www.info.pmda.go.jp/>